



# デンマークの 食と暮らし研究会

## NEWS LETTER JAN 2025

発行：NPO法人デンマークの食と暮らし研究所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気ビル南館12F

Tel 03-3213-4801 Fax 03-3213-5406

### 新年のお祝い



一年を通じて、デンマークでもっとも重要な日は間違いなくクリスマスと言えます。1日のほとんどが暗い冬に、家族が集まって食卓を共にし、一緒の時間を楽しむ日はデンマーク人にとって特別です。しかし大晦日と新年も、クリスマスと同じくらいに重要です。この二つの日は、おおむね1週間の違いがありますが、実は同じルーツを持っています。

紀元後826年に、デンマークへキリスト教が伝わる前まで、クリスマスは冬至のお祭りとして祝われていました。現在でもデンマークではかつての言葉で「冬至のお祭り」を起源とする言葉の「Jul(ユール)」という単語が、クリスマスという意味で用いられています。

地球上では北に行くほど日が短くなるため、デンマークの冬は長く暗いものとなります。そのため、日照時間が長くなる起点的冬至には、太陽の復活が祝われていました。また、太陽の復活という意味合いから、冬至は新年の日としての性格も持っていました。人々はたく

さんの食べ物や飲み物で、楽しいことがたくさん盛り込まれたこのお祝いを、数週間にわたって行っていたようです。そして、お祝いを愛する北欧の人々は、その後何世紀にもわたってこの祝祭をほぼそのまま維持してきました。

やがて北欧でキリスト教が広まった後、この冬至のお祭りはキリスト誕生の日、つまりクリスマスに変えられてお祝いされるようになりました。今では12月24日から26日ごろまではクリスマス休暇となり、伝統的な踊りや料理を楽しみます。家族との時間を大切にして、キリストの生誕を祝う日となりました。

また、紀元後1700年頃にはデンマークでも現代の暦(グレゴリオ暦)が使われるようになり、新年は公式的に冬至のお祭り(クリスマス)の10日後となりました。そのため、ほとんどの西洋諸国と同様に、この2つの日は別々に祝われるようになったのです。

クリスマスは家族で過ごすのに対し、大晦日は友人たちと祝うのが一般的です。大晦日には通常、国王陛下の演説を聞き、美味しい食事を共にして、真夜中にたくさんの花火を打ち上げます。今日でも、デンマーク人に大晦日で一番楽しいことは何かと尋ねると、ほとんどの人がこうしたにぎやかなパーティを挙げます。だんだんと夜が更けるにつれて、浴びるように酒をあおり、来る新年を祝おうとするデンマーク人は、まさにヴァイキングそのものに見えるかもしれません。

### デンマーク人のユーモアセンス

デンマーク人のコミュニケーションは、率直で的を射ているにもかかわらず、非常に親しみやすいことが特徴とよく言われます。一方で、時折外国人を困惑させる一面があります。それはデンマーク人のユーモアのセンスについてです。

まず前提として、ユーモアは困難な状況を和らげるために使われることがよくあります。たとえば、誰かがミスをした場合、そのミスを犯した人が自虐的なジョークを言うことで場が和みます。デンマークでは、ミスをしてしまった場合、自分自身に関してジョークを言うことが求められます。言い換えれば、その犯してしまったミスを自身があまり深刻に捉えていないと示すことが非常に重要だと考えています。

以前のデンマークの職場では、大きなミスをした人が全員に「kvajebajer」(阿呆のビール)をご馳走するのが一般的でした。現在では職場でアルコールを飲むことはあまり一般的ではなくなりましたが、その代わりに自家製の「kvajekage」(阿呆のケーキ)を持って来る人を目にする場合があります。このように、ユーモアたっぷりにミスを認めることは、困難な状況からストレスを取り除き、デンマーク人が好む精神状態、つまり誰もが受け入れられていると感じる、争いのない居心地の良い雰囲気置き換える方法です。言い換えれば、ヒュッゲです。

同じように、誰かに何か良くないことが起きた時に、周囲にいる人がブラックで皮肉なジョークを送ることがあります。たとえば、誰かがランプに頭をぶつけた場合、まず先にランプに傷が無いかを確認し、ぶつけた人の心配をしないフリをします。これもまた可哀想だとか無神経だとか思われることはありません。むしろ、周りがブラックジョークを言ってあげることで、本人のつらい、または恥ずかしい瞬間を和らげるのです。

ちなみに、デンマークの家庭には低い位置に吊るされたランプがたくさんあります。あまり実用的ではありませんが、ヒュッゲの表現の1つです。なので、ランプに頭をぶつけることは日常的に起こり得ます。

ほとんどのデンマーク人は彼らのドライでブラックなユーモアが、他の文化の人々にあまり理解されていないのではと考えています。そのため、デンマーク人が日本人と会う時は、あまりジョークを言わないようにして、控え目でいようとするかもしれません。一方、彼らがあなたについてジョークを言い始めたとしても、気分を害さないでください。それは、あなたが彼らに受け入れられ、あなたと一緒にいることに安心しているというサインかもしれません。何気ない彼らのジョークは、実際には敬意を表す表現でもあるのです。



### デニッシュマークは安心ポークの証し

デニッシュマークは、良質なデンマーク産豚肉を使用した製品やメニューに表示されています。



## 日本とデンマークの照明の違い

ここ最近、デンマークの文化である「ヒュッゲ(Hygge)=心地よい状態」という言葉が日本でも聞かれるようになりましたが、Hyggeには空間の雰囲気非常に重要になります。そして空間の雰囲気を大きく変えるのは照明とされています。

Hyggeはデンマーク人にとって欠かせない状態や時間であり、その度合いは色温度が低いほど(つまり暗いほど)質が高まるとされています。したがって、日本の一般家庭のように、蛍光灯で真上から白く照らされてしまう空間は、デンマーク人からすればあまり心地よいと言えないということになります。

光源に直接照らされない暖色の照明を部屋の隅に間接照明で使うことで、部屋の雰囲気はぐっと落ち着いたものになります。著名なデンマーク家具職人のポール・ヘニングセンのアイデアの原点は、やわらかい明かりの灯油ランプだと言われており、彼のデザインした照明は光源に直接照らされない、どこから光を見てもやわらかい間接照明になるように作られていることが特徴です。こうしたやわらかい明かりへのこだわりは、1年のほとんどが暗い北欧に生きる人々にとって自然なものであると言えます。

一方、なぜ日本では蛍光灯が主流なのでしょう。様々な論の中で興味深いのは、日本固有の「障子」との関連性です。障子は遮光の機能もありますが、日中は部屋を明るく見せることが出来る散光の役割もあったようです。この白く部屋全体を包む光が、遺伝的に日本人に馴染みがあるというのです。また、囲炉裏文化の名残から、日本人は部屋の中心に団らん場を設ける傾向があり、近代以降も部屋の中心に、隅々まで明るい蛍光灯を置くことが好まれたという意見もあります。

新しい年になり、慌ただしい毎日ですが、そのなかで「ホッと一息つきたいな」という日は、蛍光灯を消して間接照明だけにするのもよいかもしれません。



## Danish Pork親睦ゴルフ会



2024年11月9日(土)茨城県つくばみらい市 取手国際ゴルフ倶楽部にて第21回 Danish Pork親睦ゴルフ会が開催されました。デンマーク産豚肉をご愛顧いただいております食肉・フードサービス業界関係者の皆様と、デニッシュクラウンを含め60名の方にご参加いただきました。

秋の澄んだ空の下、腕を競い合いながらも和やかな雰囲気でプレーを楽しみました。



## DANISH EVENING PARTY 2024



2024年12月12日(木)、帝国ホテル東京桜の間にてDANISH EVENING PARTY 2024を開催いたしました。

当日は約100名の皆様にご参加いただき、交流を深める事ができました。余興として桐朋学園大学音楽学部の学生さんによる弦楽四重奏が披露され、会場全体がその音色に包まれました。

また、今年も恒例の抽選会が行われ、当選された方々はデンマークに関連する景品を手に入れました。年の瀬のお忙しい中、ご参加いただき誠にありがとうございました。



## デンマークチーズ協会 情報交換懇親会

2024年12月4日(水)、帝国ホテル東京 楓の間にて情報交換懇親会が開催されました。

会員各社の方々が集い、昨年開催された海外視察研修の報告など、情報の共有や親睦を深める場となりました。

### 編集後記

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願ひ致します。

2024年の年末年始に9連休を取れた方は多かったのではないのでしょうか。実は2025年の年末年始も9連休になる可能性が高いそうです。そうと聞いて、今から既にウキウキしております。9連休取れますように。。。



## デニッシュマークは安心ポークの証し

デニッシュマークは、良質なデンマーク産豚肉を使用した製品やメニューに表示されています。

